

「のだ」と「것이다」の対応関係

—近代文学作品の翻訳例を中心に—

崔 眞 姫*

(e-mail: pumpkin98@hanmail.net)

目 次

1. はじめに
 2. 先行研究
 3. 近代文学作品における「のだ」と「것이다」の対応関係
 4. まとめと今後の課題
-

1. はじめに

説明のモダリティと言われる日本語の「のだ¹⁾」は、他言語に比べ、使用頻度の高さや機能の多様性が特徴である。「のだ」は名詞化の機能を持つ準体助詞「の」に「だ」が後接し、モダリティとして用いられている。「のだ」は文法化²⁾の過程を経て、その機能や使用範囲を拡張してきた形式である。「のだ」は文法化に従い、「具体的意味から抽象的・主観的意味」へ、「文レベルからテキスト・談話レベル」への意味変化が見られる。

「のだ」に対応する韓国語の「것이다」は「のだ」に比べて使用制約が強い。崔(2005)は「のだ」は文法化が進んでおり、モダリティ形式として定着しているが、「것이다」は完全に文法化していないとし、文法化の過程で完全に機能語になりきっていない語

* 白石文化大学日本語学部、専任講師

1) 「のだ」は「のだ、んだ、のです、んです、のですか、んですか、の」といったものを含めたものである。本稿では「のだ」+終助詞も分析対象とする。

2) 文法化(grammaticalization)は語彙的意味を持つ内容語が文法的意味を表す機能語に変化し、文法的意味を獲得した機能語がさらにそれを拡張する通時的過程またはその過程の共時的表象である。

彙の文法的機能が「것」の語彙的意味によって制約される現象から「のだ」より「것이다」のほうに制約があると述べている。「のだ」と「것이다」の文法化については認められているが、文法化の過程に関する研究が少ないようである。

従来の「のだ」と「것이다」の対照研究では、主に現代の資料に注目しており、日本語が韓国語に訳されはじめた時代の作品を分析したものは見当たらない。本研究では通時的研究の一考察として、近代に焦点を当てて、近代作品における「のだ」と「것이다」の対応関係を分析した。

2. 先行研究

2.1 「のだ」の先行研究

「のだ」は多くの先行研究が見られる(田野村(1990);野田(1997);益岡(2007))。野田(1997)は名詞化するためのスコープの「(の)だ」とモダリティの「のだ」に分類している。

「のだ」の使用は文脈との関連性が重要な要因であるが、話し手の心的態度によって用いられるという。

崔(2005)は文法化の観点から「のだ」の機能を分類している。「のだ」は「名詞化の機能」→「文連結の機能」→「態度表明の機能」という過程を経て、機能が拡大されていく。いずれの機能も準体助詞「の」+「だ」が文法化していく過程で発達した機能であり、文法化の度合いが異なると考えられる。また、各機能は連続性を持つ。名詞化の機能は客観的に事態の内容を表す命題レベルであり、文連結の機能と態度表明の機能は主観的態度を表すモダリティのレベルである。このうち、文連結の機能は文と文を関係づけると同時に、話し手が事態をわかりやすく伝えようとする心的態度も表現される。従って、文連結の機能は名詞化の機能と態度表明の機能の間に位置づけられる。

名詞化の機能を担う「のだ」は、動詞文・形容詞文を「の」によって名詞化することで、対比性を持たせる。命題の成立にかかわる文要素に焦点が当てられており、それと対立する要素が否定される。焦点の該当要素と対立する要素を否定することで、話し手の伝えたいことを適切に表現することができると考えられる。名詞化の機能を担う「のだ」はスコープの「のだ」である。

(1)あなたのために買ったんじゃない。自分のために買ったの。

(1)「買ったんじゃない」は「買った」ことを否定するものではない。「買った」のは既定の事態であるが、買ってあげる対象が焦点となる。対立要素の「あなた」を否定し、焦点

である「自分」を肯定している。このように焦点の該当要素と対立する要素を対比させることで、事態を明確にしている。

名詞化する機能の「のだ」には対立性の意味合いが消失しており、「の」+「だ」に分析できない文連結の機能を担う「のだ」も見られる。文連結の「のだ」は構文的には文を名詞化し、それに加えて文を先行文脈や状況と関係づけられていることを示す働きがある。

(2)これ以上邪魔しないでください。予定より遅れているんです。

(2)は聞き手に「邪魔しないで」と頼んでいる。その理由として「予定より遅れている」ということを述べている。自分が頼んでいることを聞き手に理解してもらうために、わかりやすく説明するために、「のだ」が用いられる。

態度表明の「のだ」は文を先行文脈や状況と関係づけているとは捉えにくく、「のだ」を用いることで、談話的状況において話し手の心的態度を表すことができるため、態度表明の「のだ」と呼ぶ。態度表明の「のだ」は語用論的に強化された表現である。語用論的強化とはある表現がある状況の下で実際に使用する際の話者の解釈が次第にその語の意味に取り込まれることである。

(3)私は自分自身を客観的に見ることができるんです。あなたと違うんです3)。

(3)は日本の首相が記者の質問に返した発言である。聞き手と対立している状況で、「自分自身を客観的にみることができる」、「自分はあなたと違う」ということをことさらに伝えていと解釈される。「のだ」は事態をわかりやすく説明するために用いられるが、話者の判断によってことさらに既定の事態を述べるためにも用いられる。

「のだ」の史的研究としては、福田(1998)、氏家(1992)、青木(2010)がある。福田(1998)は近世に入って、準体助詞「の」が成立したために、連体形に準体助詞「の」+指定詞「だ」という形が生まれており、中世後期では現代語の「のだ」に対応する形式が欠けていたとしている。

(4)是ハ山にて四五日もいぜんに、鹿とともぐいして死にたるのじゃ

(武左衛問口伝はなし1683・下:吉川1950)

(福田1998、p.41)

3) 2008年9月1日に行われた福田総理(当時)の辞任表明中に中国新聞の記者からの質問に対し「私は自分自身を客観的に見ることは出来るんです。あなたと違います。」と答えた。

近世前期における「のだ」の中心的機能は「説明」ではなかった。福田(1998)は近世後期では現代語の「ものだ」「ところだ」に該当する「のだ」が用いられたと述べている。

氏家(1992)は「のだ・のか・のさ」が定着したのは18世紀後半だとし、「説得・強調の単独型」と「事態説明の応答型」は江戸期にあまり出現していなかったという。つまり、通時的にも名詞化の機能と文連結の機能のほうが先に現れ、話者態度表明の機能へ拡大していると考えられる。

2.2 「것이다」の先行研究

안주호(1997)は韓国語の名詞の文法化を3段階に分類している。第1段階は依存名詞の段階、第2段階は接語化 (clitic)段階で、第3段階は語尾、助詞、接尾辞化の段階で、機能語がより機能語に変わってきたと述べている。

また、김언주(1996)は通時的に「것」の機能が拡大していくとし、「것」を二つに分類している。

「것1」：派生語のように先行形式に名詞性付与
語彙の意味を付与

(5) 그가 벌어들(인/ 이는/ 일) 것이 엄청나다.
彼が {稼いだ/稼ぐ/稼ぐ} のはすごい。

「것2」：先行形式と密接に結合する
命題全体に叙法的意味を付与

(6) 그가 벌어들인 재산은 엄청날 것이다.
彼が稼いだ財産はすごいだろう/のだ。

(김언주1996, p.201)

「것1」は先行形式と後行形式との結合に制約がないが、「것2」は先行形式と後行形式との結合に制約があるという。(5)は過去形・現在形・未来形に「것1」が結合されるが、(6)は未来形にしか「것2」が結合されない。また、(5)の「ㄴ/는/ㄹ것1」は先行形式と分離可能であるが、(6)「ㄹ것2」は一語化している⁴⁾。このように統語的制約が多くなるということは語彙的機能から文法化が進んだのだと考えられる。

また、이승녕(1976)も中世韓国語の「것」の研究で、「것1」は15世紀に生産的であったが、16世紀になって、モダリティの機能を持つ「것2」が発達していると述べている。

「것이다」は「のだ」と同様、通時的に文法化が進んでいるのである。

4) 徐(1978)は「ㄹ것이다」は一語化していると認めているが、「ㄴ/는것이다」の一語化は認めていない。

2.3 「のだ」と「것이다」の対照研究

「のだ」と「것이다」の対照研究としては印(2003)、崔(2006)、堀江(2005)、金・堀江(2010)がある。

印(2003)は地の文では「-n geosida」は話し手の感情に「ニュートラル」な場合も用いられるが、会話文では話し手にとって「反意」的に捉えられたコトガラを取り立てて述べる時に主に使用され、特に会話文の疑問文になると、話し手の「非難・不満」が強く現れる場合の使用が多いとし、「のだ」は関係づけるために使用されると述べている。

崔(2006)は「のだ」と「것이다」の使用条件が異なる原因を文法化の度合いに関係していると述べている。「것이다」は名詞化の機能が強く残っており、文連結の機能と態度表明の機能としてはまだ定着していない。名詞化の機能は対比の意味を持ち、「非難・不満」の意味合いを表しやすくと報告している。

金・堀江(2010)は両言語の談話資料を分析している。「のだ」と「것이다」は先行文に対する「原因」「具体的な説明」を後続文で述べる場合、一般的な場合、一般的なコトガラについて聞き手に「教示」する場合に対応する傾向があるとし、一方で、両形式にずれがみられ、話し手自身にまつわる情報の「吐露・告白」、「んですが/けど…」のように慣用化した用法は「のだ」に「것이다」が対応していないと述べている。

「のだ」と「것이다」の対照研究をまとめると、「のだ」のほうが「것이다」より使用頻度が多い点と慣用化した用法におけるずれが認められている。

3. 近代作品における「のだ」と「것이다」の対応関係

3.1 「のだ」に「것이다」が対応する場合

本研究では日本の『不如帰⁵⁾』と『金色夜叉⁶⁾』の用例を分析した。近代の「のだ」と「것이다」の使用状況を探ることができると思われる。『不如帰』と『金色夜叉』は翻案小説である。翻案小説は外国の作品をその内容やストーリーはそのままにして、風俗、地名、人名などを自分の国に合わせて翻訳した小説である。韓国では1910年代に中央日刊誌に連載されはじめて、小説が現れ始めた。韓国の小説の始まりは翻案小説であるといえる。

近代作品における「のだ」に「것이다」の使用の結果は次のとおりである。

5) 「不如帰」(徳富蘆花)は国民新聞に1898年から1899年まで連載された。

불여귀は1912年刊行された。(조중환번역, 박진영편, 2006)

6) 「金色夜叉」(尾崎紅葉)は読売新聞に1897年1月1日から1902年5月11日まで連載された。本研究では「金色夜叉」前編～中編(4章)のみ分析した。장한몽(조중환번역, 박진영편, 2007)

近代作品における「のだ」と「것이다」の対応関係

「のだ」の 使用例	「のだ」に「것이다」が対応す る例	「のだ」に「것이다」が対応し ない例
『不如帰』 (184例)	9例(4.8%)	175例(95.2%)
『金色夜叉』 (175例)	13例(7.4%)	162例(92.6%)

『不如帰』では「のだ」が184例であり、「のだ」に対応する「것이다」は9例(4.8%)しか見られなかった。『金色夜叉』では「のだ」が175例であり、「のだ」に「것이다」は13例(7.4%)対応している。

現代作品⁷⁾より近代作品のほうが「のだ」の使用例が少なかった。今後、通時的に「のだ」の使用の変遷について検討すべきである。また、現代作品に比べ、近代作品では「のだ」に「것이다」が対応していないと推測される。

「のだ」に「것이다」が対応する例をあげ、意味・機能を分析する。

先行文脈や状況と関係づけられる内容を表す場合、文連結の「のだ」に「것이다」が対応している。

(7)は話し手の行動について聞き手が誤解しており、聞き手に説明する場面である。

(7) 「そうお逃げなさらんでもいいわ」(中略)

「逃げる？ 僕は何も逃げる必要はない。行きたい方に行くのだ。⁸⁾」

“그렇게 달아나지 마세요.”(중략)

“달아나, 내가 왜 달아나. 무슨 달아날 일 있나. 내 발 가는대로 가고 싶은 대로 가는 것이지”
(불여귀, p.95)

聞き手は案内してあげたいと言っているが、話し手はそれを断って、一人で行こうとする場面である。話し手の行動に対して「逃げる」行為ではなく、「行きたい方に行く」という状況を説明している。話し手の行動を聞き手が誤解しないように明確にする必要がある場合、「のだ」に「것이다」が対応している。

(8)は先行文脈の理由を表す場面である。病気になったのは風邪が原因であると説明している。

7) 崔(2006)では『魔女の宅急便』と『秋の童話』を分析した結果、「のだ」(900例)に「것이다」(134例)が対応しており(14.8%)、「것이다」より「のだ」のほうが使用数が顕著に多いと報告している。

8) 『不如帰』『金色夜叉』は青空文庫(インターネット版)を用いており、正確なページを確認できなかったため、日本語の用例の出典は今回省略することにする。

- (8) 「はあ、そんな事をいいますが、しかし浪のは全く感昌(かぜ)から引き起こしたんですからね。なあと、母(おっか)さん用心次第です、感染の、遺伝のいふですが、実際そういうほどでもないですよ。」
“글쎄, 그런 소리를 나도 아니 들은 것은 아니에요. 그렇지만 나미코의 병은 시초가 감기로 해서 난 것이니깐 어머니, 그렇게 염려하실 것 없어요. (불여귀,p.137)

風邪から病気になったので、当然、そんなに重い病気ではないと述べている。このように話し手が当然な事柄を理由として述べるとき、「のだ」に「것이다」が対応している。

(9)は事柄を明確に伝えるために、対比させて提示している場面である。名詞化の「のだ」に「것이다」が対応している。

- (9)僕は世の中がつまらないために、その樂を拵へたのではなくて、その樂のために、この世の中に生きてゐるのだ。
“나는 세상이 재미가 있어서 이 낙을 구한 것이 아니라 이러한 낙이 있는 고로 이 세상에서 살아 있는 것이오.” (장한몽,p.55)

「つまらないために」に焦点を当てて、否定しているが、「樂のために」に焦点を当てて、肯定している。名詞文も対比性を持っており、名詞化の機能を持つ「のだ」も「것이다」も対比性を持つ。

(10)は日本語の「のだ」は先行の文と後行の文に用いられているが、「것이다」は先行の文には用いられておらず、後行の文に用いられている。

- (10)宮さんはそれでは樂と云ふものが無いのだね。(先行の文)
“그러니까 순애는 이때까지 낙이라 하는 것이 없구려.”
この樂があればこそ生きてゐと思ふ程の樂は無いのだね(後行の文)
“이러한 낙이 있으니까 이 세상에 살아 있기가 재미가 있다고 할 만한 낙이 없는 것이로구려.” (장한몽,p.54)

(10)は生きることについて語っている場面であるが、話し手が聞き手が述べた既定の事態を聞いて納得する場面である。聞き手が述べた内容を受け入れる先行の文では「のだ」に「것이다」が対応していない。一方、後行の文は「樂がない」ということを具体的に述べており、「のだ」に「것이다」が対応している。「のだ」は話し手が既定の事態を伝えるために用いられるが、「것이다」は既定の事態を伝えるだけに用いられるより、先行文との関連性が高い場面で用いられやすいと考えられる。

(11)は夢をみたという聞き手に夢の内容を聞いている場面である。

(11) 「はははは、氣沢山だねエ、どんな話をしていたかい」

“무슨 이야기를 하더란 말이오.”

「何かわからないのですが、お母さまが何度もうなずいていらっしましたわ。—お千鶴さんが、あの方と山本さんといっしょに連れ立っていなさるのを見かけたって話したから、こんな夢を見たのでしょうね。」

“무슨 말인지 알아듣지는 못하겠어도 어머님께서는 자꾸 고개를 끄덕끄덕하십니다. 일전에 지즈코상이 내게 올 적에도 정거장에서 지지와상하고 야마키상하고 만나 보았던 말을 들었더니 그래서 아마 이런 꿈을 꾸게야요.” (불여귀,p.125)

このように、聞き手から説明の要求があり、どんな夢だったのかについて詳しく述べる場合、「のだ」も「것이다」も用いられる。

一方、平叙文の「のだ」に、形態的に連体修飾節の「것」を含んだ文末形式が対応する例も見られる。(12)は「夫婦の幸せ」について語る場面であるが、「ないのだ」が用いられているが、韓国語の場合、疑問形「것이 있나」が用いられている。

(12)夫婦の幸福は全くこの愛情の力から、愛情がなければ既に夫婦はないのだ。

만일 제가 돈으로 사랑을 하면 그것은 내가 꿈에도 따라가지 못하겠지만 나는 정으로 사랑할 수가 있다. 부부간에 행복(幸福)이라 하는 것은 전혀 애정(愛情)에서 나오는 것인데 이 애정이 없으면 부부라고 말할 것이 있나. (장한몽,p.101)

愛情がなければ夫婦とは言えないという既定の事態を述べる場合、「のだ」が用いられているが、「것이 있나(言えるのか)」が用いられている。

そして、(13)は文末に「働いているのだ」が用いられているが、韓国語は否定形の「것이 아니오」が用いられて、聞き返すように表現している。

(13)儂いのが世の中と覚悟した上で、その儂い、つまらない中で切ては求めやうとして、究竟我々が働いてゐるのだ。

믿을 수 없는 것은 세상이라 하지만은 그와 같이 믿을 수 없고 허황한 세상 가운데에서 간절히 낙을 구하려고 우리네 사람이 모두 이렇듯 각각 힘써 일하는 것이 아니오. (장한몽,p.53)

働く理由に焦点に当てて述べている発話で「のだ」が用いられている。「のだ」に疑問否定形「것이 아니오(のではないのか)」が用いられている。

このように、当然な内容、既定の事態を確認するような表現として「것」を含んだ文末表現は「のだ」に用いられる。モダリティ形式の「것이다」より名詞化の特徴を持つ連体修飾節の「것」のほうが定着していると考えられる。連体修飾節の「것」から疑問形「것이 있나」、否定疑問形「것이 아니오」のようなモダリティ意味を持つ形式が発達されている。韓国語の場合、文末表現も形態的には名詞化する部分そのまま残されている。

「のだ」と「것이다」は話し手がある事態と関連づけて、わかりやすく、明確に伝えようとする場面で用いられる。また、対比される内容を否定し、伝えようとする事態を述べるとき、「のだ」と「것이다」が用いられている。特に、先行文との関連性が高い場合、事柄の内容を明確にするために「것이다」が用いられる。

近代作品における「のだ」と「것이다」の対応関係をまとめると、「것이다」より「のだ」のほうが使用数が多い。近代において「のだ」はモダリティ形式として文法化が進んで、多様な意味・機能を持つようになったが、「のだ」に比べて「것이다」は文法化が進んでいない。本来の名詞化の機能が強く残されており、別の機能へ発達し、定着していないと推測される。

3.2 「のだ」に「것이다」が対応しない場合

3.2.1 「のだ」に「普通名詞」が対応

『不如帰』では「のだ」に対応しない「것이다」は175例である(95.2%)。『金色夜叉』では「のだ」に対応しない「것이다」は162例である(92.6%)。「のだ」が用いられる必要がある場面で、「것이다」が用いられる必要がなかったと解釈できる。「のだ」には「것이다」の他にも、複数の形式が対応している。まず、形式名詞「것」より「일, 길, 말, 말씀, 짓, 마음」などの具体的な意味を持つ普通名詞が使われている例が多い。

(14)は「のだ」に名詞が対応している。

(14) 「どうして、貫一さん、どうしたのよ。」

“이게 웬일이오, 여보, 글썄, 별안간에 이게 웬일이야요. 저…정…신을
차리시오.” (장한몽,p.96)

「どうしたの」に韓国語の「웬일(何事)」が対応している。韓国語の「웬일(何事)」

は聞き手に何か事情を聞くと、用いられる決り文句である。

次の(15)(16)は「것이다」も用いられないことはないが、普通名詞「길(道)」「말(言葉)」が用いられている。

(15) 「帰ったの。」

“지금 오는 길이오?” (장한몽,p.50)

(16) 「はあ。千々岩さんがお母さまと何かを話をしていなさる夢を見ましたの」

“예-, 지지와상이 집의 어머님하고 무슨 이야기인지 하는 것을 보았어요. 꿈에”

「はははは、氣沢山(きだくさん)だねエ、どんな話をしていたのかい」

“무슨 이야기를 하더란 말이오.” (불여귀,p.125)

(15)は帰り道であるかを確認する発話で、「のだ」が用いられているが、韓国語は「것이다」ではなく、「길(道)」が用いられている。(16)は夢をみたという話を聞いて、夢の内容について訊いている場面で、「のだ」に「것이다」ではなく、「말(言葉)」が用いられている。韓国語では形式名詞を使うより具体的な意味を持つ普通名詞が好んで使う傾向が見られる。一方、日本語の場合、特定の意味を持たない「の」が広く使われていることが対照的である。

次の(17)(18)は既定の事態を提示する場面で「のだ」が用いられているが、「것이다」ではなく、「터이야」が用いられている。

(17) 「僕アね、おとうさま、正行ア大好きだけど、海軍がな好きよ。

おつさまが陸軍だから、僕ア海軍になるンだ。」

“나는 아버지, 남정행이도 좋아도 저어, 해군이 더 좋아.

나는 아버지, 아버지는 육군이니까 나는 해군이 될 터이야”

(불여귀,p.56)

(18) 「そいつは話せないやつだ。僕はよくしらないが、ひどく頑固なやつだそう。まあ正面から平身低頭でゆくのだ。悪くするとしくじるよ。」

“이 사람은 참 말할 수 없는 위인인데 좀처럼 들어 먹지 아니할 터이니
싼 아주 잔뜩 재갈을 메기지 아니하면 아니 되네.” (불여귀,p.44)

韓国語の形式名詞「터(ところ)」は予定、意志、推測の意味を持つ。「터(ところ)」はところを表す名詞からモダリティ形式へ文法化したものである⁹⁾。日本語の「のだ」に対

9) 「のだ」に対応する「것이다」に注目するだけでなく、他の形式名詞が文法化したものを考慮に入れて、検討す

応する韓国語の表現として、「것이다」だけでなく、「터이다」も考察する必要がある。「것이다」は事柄を明らかにするために、わかりやすくするために用いられるが、「터이다」は話し手の意志・意図を表すために用いられている。今後、日本語の「の」と「ところ」、韓国語の「것(もの)」と「터(ところ)」の文法化について比較する必要がある。

韓国語の場合、意味や状況に合わせて、複数の普通名詞・形式名詞の文法化した表現が用いられている。日本語の場合、形式と意味の一致よりも経済性を重視するため、「の」だけでカバーできる。Horie(1998)は日本語は経済性(economy)を重視するため、構造的な曖昧さが増加するが、韓国語は構造的平均性(isomorphism)¹⁰⁾を重視するため、形式が拡散すると述べている。日本語の「の」は意味を持たないために、構造的曖昧さの増加をなす。そのため、「のだ」が語用論的に解釈できて、多様な機能を持つと考えられる。韓国語は構造的曖昧さを避けており、より明確な意味や話し手の意図を表すために最も適切な形式を選択しようとする傾向があると考えられる。

3.2.2 「のだ」に「ムード、語尾形式」が対応

「のだ」には韓国語のムード、語尾形式¹¹⁾と呼ばれる「-다、-어、-지、-군、-네」などが対応している。Horie&Taira(2002)は日本語は談話のモダリティ(discourse modality)が発達しており、韓国語は談話の構造で談話のモダリティの前に位置されるムード(grammatical mood)が発達している。

(19)は「-어」、(20)は「-어요」が用いられており、無標形式¹²⁾である。

(19) 「今日はよっぽどよい方だけでも、まだ頭が重くて、時々せきが出て 困るの」

“오늘은 훨씬 낫지마는 아직 두통이 좀 있고 가끔 기침이 나서 못 견디겠어.....” (불여귀,p.107)

(20) 三人は俱にあゆみはじめぬ。貫一は外套の型を払はれて、後を捻ち向けば宮と面を会わせたり。「そこに花が粘いてゐたから取ったのよ」

세 사람은 산 아래로 내려가기를 시작하였는데 순애는 뒤에 따라 오고 수일은 가운데 서서 내려온다. 홀연 뒤로 어깨를 탁 치는 사람이 있는 고로

べきである。今後、「것이다」と「터이다」の意味・機能を明らかにしていく必要がある。また、日本語の「ところ」はアスペクト形式として発達している点にも注目し、検討すべきである。

10) Haiman(1985)は形式と意味の間には対応性がある(isomorphism,同型性)と主張している。意味が異なることが、言語形式が異なることを動機づけているとも考えることができ、もし2つの異なった形式が真に同じ意味ならば、同時に2つの形式が存在する意味は無くなってしまふ。

11) 韓国語の語尾形式については김태엽(2001)に詳しい。

12) ある文法機能が、特定の標識で示されるなら有標 (marked) と呼び、標識を用いなくて示されるなら無標 (unmarked) と呼ぶ。

돌아다보니 순애가 자기의 어깨 위에 무엇을 떨어준다.

“양복에 나무 이파리가 묻었기에 떨어 드렸어요.” (장한몽,p.90)

(19)는聞き手の知らない話し手の実情を表すために「のだ」が用いられている。(20)は肩に付いている葉っぱを取ってあげると同時に、自分の行為を説明している場面で「のだ」が用いられている。このように、実情を表す「のだ」に「것이다」は対応していない。また、目の前の場面で話し手の行為について説明する場面においても「のだ」に「것이다」は対応していない。「것이다」が用いられると、その話題に気づいていない聞き手が戸惑ってしまう可能性がある。次の(20')のように聞き手も何か付いていたと気づいている場面では「것이다」が用いられやすい。

(20')A:私の服になんか付いていた?

내 옷에 뭔가 묻었어?

B:“양복에 나무 이파리가 묻었기에 떨어드린 거예요.”

(21)は「-지13」が用いられた例である。

(21)「そのはずさ、今日は榛名(はるな)から相馬(そうま)が嶽(たけ)によって、それから二(ふた)ツ嶽(だけ)によって屏風岩(びょうふいわ)の下まで来ると迎への者に会ったんだ。」

“아, 안 그럴 수가 있나. 워낙 시장하여 놓으니깐. 오늘 내 다닌 노정기를 말할 것이니 들어보려나? 저- 진명(榛名,하루나)서 상마악(相馬,소마가다케)으로 올라가서 거기서 다시 이악(二嶽,후다츠다케)으로 나가 가지고는 병풍암(屏風岩,보부이와)아래에 오니깐 해가 꼭 저물었는데 등불 가지고 마중 나온 사람을 거기서 마침 만나서 왔지. (불여귀,p.21)

(21)は自分の大変なスケジュールを聞き手に伝える場面であるが、「のだ」に「것이다」は対応していない。

(22)は「のだ」に感嘆を表す「-구나14」が用いられた例である。

(22)「夢だ、夢だ、長い夢を見たのだ.」

13) 어떤 사실을 긍정적으로 서술하거나 묻거나 명령하거나 제안하는 따위의 뜻을 나타내는 종결 어미. 서술, 의문, 명령, 제안 따위로 두루 쓰인다. (국립국어원)

14) 화자가 새롭게 알게 된 사실에 주목함을 나타내는 종결 어미. 흔히 감탄의 뜻이 수반된다. (국립국어원)

“아, 꿈이로구나, 꿈이야. 길고 긴 꿈을 내가 꾸었구나”

(장한몽,p.99)

(22)のように既定の事態をはじめて提示する場面では「のだ」に「것이다」は対応していない。「のだ」は既定の事態を聞き手に伝えるだけのために用いられるが、「것이다」は用いられない。「것이다」は話し手と聞き手の間に文脈や状況が共有されていないと用いられる必要性が低いと考えられる。

(23)は「のだ」に「-네15」が用いられた例である。

(23) 「おや、千々岩様—どうしていらっしゃいます?」と姥はびっくりした様子にて少し小鼻にしわを寄せつ。

「おれがさっき電報かけて加勢に呼んだんだ」

“아이고, 지지와 중위 영감, 어떻게 여기까지 오셨습니까?”

하며 그 노파는 깜짝 놀라는 기색으로 말하고 은은히 눈살을 찌푸린다.

“내가 아까 전보로 청병하여 왔다네.”

(불여귀,p.32)

「のだ」は話し手の意図によって用いられる表現であり、一つの形式に多様な意味を持つことが可能である。一方、「것이다」は話し手の意図で用いられる形式ではなく、話し手と聞き手が認識している事柄の内容を明確に、わかりやすくするために用いられる形式である。

(24)は文末形式の「のだ」に文末形式の「것이다」ではなく、連体修飾節の「것이」が対応している。

(24)だからさ、そんなくだらぬ繰り言ばかり言ってるよりも別にな、立派なところにな、生涯樂をさせようと思っているのだ。

“그러하니깐 쓸데 없는 되지 아니할 소리만 하지 말고 다시 좋은 혼처를 얻어서 일평생을 잘 살게 하는 것이 제일 일세.”

(불여귀,p.34)

文末の「のだ」に強調構文の「のは」のように「것이」が対応している。‘일평생을 잘 살게 하는 것이다’より‘일평생을 잘 살게 하는 것이’の構造が好まれる。近代作品においては「のだ」は文末形式として定着しているが、「것이다」は文末形式として定着していない。一方、名詞化する機能を持つ「것」が用いられやすい。

一方、韓国語の「것이다」が用いられているが、「のだ」が用いられない例も見られ

15) 단순한 서술의 뜻을 나타내는 종결 어미. 지금 깨달은 일을 서술하는 데 쓰이는 종결 어미. 흔히 감탄의 뜻이 드러난다. (국립국어원)

る。(25)は「것이다」に「ものだ」が用いられている。

(25)風邪はじいと寝ておると、なおるもんじや。

“감기라 하는 것은 가만히 방 안에 누워 있으면 저절로 낫는 것이야.”

(불여귀,p.105)

「ものだ」は風邪の属性を述べる場合、用いられている。「のだ」は「風邪は寝ているとなおる」という既定の事態を聞き手に伝えるために用いられる。「것이다」は風邪の属性を述べているために用いられやすい。「のだ」は対人モダリティであるが、「것이다」は対人モダリティより対事モダリティに近い形式であると考えられる。今後、「ものだ」・「のだ」と「것이다」を検討する必要がある。

4. まとめと今後の課題

本研究では近代文学作品における日本語の「のだ」と韓国語の「것이다」の対応関係を分析し、考察した。『不如帰』では「のだ」が184例であり、「のだ」に対応する「것이다」は9例(4.8%)しか見られなかった。『金色夜叉』では「のだ」が175例であり、「のだ」に対応する「것이다」は13例(7.4%)見られた。

近代文学作品において、「のだ」に「것이다」が対応する例は非常に少なく、複数の形式が対応している。先行文脈や状況との関連づけが明確であり、事柄の内容を明確にするために「のだ」が用いられた場合、「것이다」が対応している。「のだ」は聞き手に話し手の意図を表すためにも用いられるが、「것이다」は用いられない。「のだ」は談話レベルのモダリティとして発達したが、「것이다」のほうは「のだ」より文法化が進んでいない。それは「の」、「것」の意味に関係していると思われる。「の」は意味を持たないが、物の意味を持つ「것」意味的制約により、名詞化の機能が強く残っている。

また、「のだ」に「것이다」ではなく、韓国語の普通名詞「일, 길, 말, 말쌈, 짓, 마음」とムードの「-다, -어, -지, -군, -네」が対応している。韓国語の場合、形式と意味の一致を重視し、曖昧な表現より意味が明確な名詞を使う傾向がある。そして、韓国語は、話し手の意図を表すために「것이다」よりムードのほうが用いられると思われる。

今後、「のだ」と「것이다」の文法化の違いを明らかにするためには、多くの資料を分析する必要があり、通時的な観点から「のだ」と「것이다」の使用の推移と文法化の過程を追究したい。

【参考文献】

- 김언주(1996) 「'것'의 분포와 기능- 통시적 고찰을 중심으로-」 『우리말연구』 6, pp.179-216, 한국어학회
- 김태엽(2001) 『국어 종결어미의 문법』 국학자료원
- 안주호(1997) 「한국어 명사의 문법화 현상 연구」 한국문화사
- 이승녕(1975) 「중세국어의 '것'의 연구」 『진단학보』 39, pp.105-138, 진단학회
- 印省熙(2003) 「日本語の「のだ」と韓国語「-ㄴ 것이다」の対照研究」お茶の水大学大学院博士論文
- 氏家洋子(1992) 「ノデス文の成立とその背景—日本語史との対話—」 『辻村敏樹教授古希記念日本語史の諸問題』 pp.554-572, 明治書院
- 青木博史(2010) 「名詞の機能語化—形式名詞を中心に—」 影山プロジェクト「日本語レキシコンの文法的・意味的・統語的特性」レジュメ
- 金廷珉·堀江薫(2010) 「「のだ」構文の談話に関する対照言語学的考察—韓国語の「KES-ITA」との対比を通じて—」 『言語学と日本語教育VI』 南雅彦編 pp.175-190, くろしお出版
- 田野村忠温(1990) 「現代日本語の文法 I : 「のだ」の意味と用法」 和泉書院
- 崔真姫(2005) 「「のだ」の文法化と機能別必須性に関する研究」 神戸学院大学大学院博士論文
- 崔真姫(2006) 「「のだ」と「것이다」の対照研究—文法化の度合いの違い—」 『日本文化学報』 29輯, pp.27-43, 韓国日本文化学会
- 野田春美(1997) 『「(の)だ」の機能』 くろしお出版
- 福田嘉一郎(1998) 「説明の文法的形式の歴史について—連体なりとノダー—」 『国語国文』 6, pp.36-52, 京都大学
- 堀江薫(2005) 「日本語と韓国語の文法化の対照」 『日本語の研究』 1(3), pp.93-106
- 益岡隆志(2007) 「日本語モダリティ探求」 くろしお出版
- Kaoru Horie(1998) Functional Duality of Case-Marking Particles in Japanese and its Implications for Grammaticalization: A Contrastive Study with Korean. in Silva, David(ed.), *Japanese/Korean Linguistics* 8, 147-159, Stanford: CSL
- Kaoru Horie & Kaori Taira(2002) *Where Korean and Japanese Differ: Modality vs. Discourse Modality* *Japanese/Korean Linguistics vol10*, 178-191, Stanford Linguistics Association
- Haiman, John(1985). *Natural Syntax*. Cambridge: Cambridge University Press.

要 旨

本研究では近代文学作品における日本語の「のだ」と韓国語の「것이다」の対応関係を分析した。『不如帰』では「のだ」が184例であり、「のだ」に対応する「것이다」は9例(4.8%)しか見られなかった。『金色夜叉』では「のだ」が175例であり、「のだ」に対応する「것이다」は13例(7.4%)見られた。「のだ」に「것이다」が対応する例は非常に少なく、複数の形式が対応している。先行文脈や状況との関連づけが明確であり、事柄の内容を明確に伝えるために「のだ」が用いられた場合、「것이다」が対応している。しかし、「のだ」は話し手の意図を表すためにも用いられるが、「것이다」は用いられない。「것이다」は話し手と聞き手が共通に認識している事柄の内容を明確にするために用いられる。

近代文学作品において「のだ」は談話のモダリティとして発達したが、「のだ」に比べ、「것이다」は文法化が進んでいない。「것이다」は「것」の意味的制約により、名詞化の機能が強く残っていると思われる。

一方、「のだ」に、「것이다」が対応せず、韓国語の「일」「길」「말」「터」を含んだ表現とムードの「-다, -어, -지, -군, -네」などが対応している。日本語は「のだ」が複数の意味・機能を持っているが、韓国語の「것이다」は使用制約が強い。韓国語は形式と意味の一致を重視し、曖昧な表現より明確な意味をもつ名詞を使う傾向がある。そして、話し手の意図を表すためには「것이다」よりムードのほうが用いられると思われる。

キーワード：「のだ」、 「것이다」、 文法化、 近代文学、 翻案小説

투 고 : 2012. 2. 29

1차 심사 : 2012. 3. 17

2차 심사 : 2012. 4. 7